

都市再生整備計画(第6回変更)

しただ
下田地区

にいがた さんじょうし
新潟県 三条市

平成27年1月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	新潟県	市町村名	三条市	地区名	下田	面積	690 ha
計画期間	平成	22	年度	～	平成	26	年度
				交付期間	平成	22	年度
					～	平成	26
							年度

目標

- 大目標:「自然環境をはじめとする下田の地域資源を活用した着地型観光の地域づくり」
- 目標1: 自然や食などの地域資源を活かした体験型のグリーンツーリズム、エコツーリズムの充実を図る。
- 目標2: 点在する観光資源を結びつけた回遊性のある観光メニューを創出する。
- 目標3: 地域住民が担い手となる自律可能な通年型観光メニューの創出。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

平成17年5月1日、三条市、栄町、下田村が合併し、新三条市が生まれた。新市発足後、三条市総合計画を策定し、この中で、観光産業の振興のため、地域の有する観光資源を有機的に結びつけた観光振興策を講じ地域資源を活かした観光事業の推進を図るとともに、三条市の四季折々の魅力を内外に紹介し、観光客のニーズに沿った体験型・交流型観光を創出し、リピーター創出型観光の促進を図ることにより観光・交流の推進することとした。加えて、地域特産品の研究開発を行うため、地域の担い手の育成し観光商品の開発支援に努めるとともに、こうした観光施策の推進に必要な施設整備に努めることなどを定めた。

また、三条市都市計画マスタープランにおいても下田地域は、越後三山只見国定公園や奥早出粟守門県立自然公園など豊かな自然資源が豊富なことから自然区域としてゾーニングしており、その保全に努めることとしていると同時に、地区別構想ではこうした自然資源、天然資源を積極的に活用し、観光交流の拠点化を図るため、施設の整備・充実を進めることとしている。また、国道289号の工事が進められており、開通の暁には隣県の福島県との積極的な交流も期待される。

加えて、三条市の観光振興策を定めた三条市観光基本計画には、基本理念を「旅人が旅人をよぶ地域ぐるみのもてなし観光」とし、日本の棚田100選に選ばれた北五百川の棚田を活用した農業体験などによる体験プログラムの創出、越後三山只見国定公園や奥早出粟守門県立自然公園にある粟ヶ岳・守門岳などの山々や森の活用、信濃川に注ぐ清流五十嵐川の活用、にいがた景勝100選の八木ヶ鼻の活用、及び雪を活用した観光メニューの開発により、通年型の観光を可能にするよう基本的な方向付けをしている。

これらのことから、下田地域の自然や食、歴史などの資源を活かした地域住民の創意工夫に基づく体験型・滞在型の観光メニューを創出するとともに必要な観光施設を整備し、自律可能な観光地づくりを行うものである。

課題

- 1 下田地域には越後三山只見国定公園や奥早出粟守門県立自然公園やにいがた景勝100選の一つである「八木ヶ鼻・笠堀溪谷」などの自然資源及び日帰り温泉施設 や道の駅などがあるが、点在しているだけでそれぞれの繋がりがなく、面的な広がりがなく観光資源として活かされているという状況ではない。
- 2 観光動態調査によれば、三条市全体の観光入込客数は、お祭りやイベントによるところが大きく、その時期の観光客の入込数は多いが、年間を通じての入込数は少ない。
- 3 観光の楽しみである「食」を満足させる要素が少ない。
- 4 近年の観光が個人型にシフトしている中で、人気となっている「体験型観光」の要素が少ない。
- 5 三条市が平成17年に行った来訪者観光アンケート調査によれば、三条市の観光施設、観光地、イベントなどの認知度は低く、観光情報の提供、郷土料理・名物料理や宿泊施設、土産物の充実などの整備要望が多くなっている。

将来ビジョン(中長期)

下田地区を地域の特性を活かしたグリーンツーリズム、エコツーリズムなどの観光拠点としたい。

このため、奥早出粟守門県立自然公園内にあり日本三百名山にも数えられている粟ヶ岳、高山植物でなかなか見られないヒメサユリが群生する高城及び河川では珍しく白鳥が飛来する森町地区の五十嵐川並びに道の駅漢学の里の諸施設を整備し、県内の日帰り温泉の中でもっとも多い集客を誇る「いい湯らてい」を結ぶことにより地区全体の回遊性を高め、観光客の利便性を向上させ、観光地としても魅力をアップさせる。

また、現在、地区内では秘境体験、農業体験など地域住民が中心になって各種の体験メニューの充実に取り組んでいるが、滞在型観光を推進するためには、これらの輪をさらに広げ、充実させていきたい。

加えて、現在、新潟県と福島県を結ぶ国道289号いわゆる八十里越の開削工事を行っているが、完成の暁には新潟県、福島県などをはじめとする広域観光の拠点としての可能性も期待できる。

このためにも、上記のように道路を整備することで地域内に点在する観光拠点を結ぶとともに道の駅として魅力を高めるためレストラン、直売所などの観光機能を強化するなどのハード整備を行い、さらに住民が主体となった体験型観光メニューとこれら観光施設をつなげることにより、観光地としての拠点性を高める。こうして、下田地区が魅力ある観光エリアとなり三条市における滞在型ニューツーリズム観光のメッカとなるべく整備を行い、三条市観光基本計画を推進し、地域の自律性も高めていきたい。

目標を定量化する指標

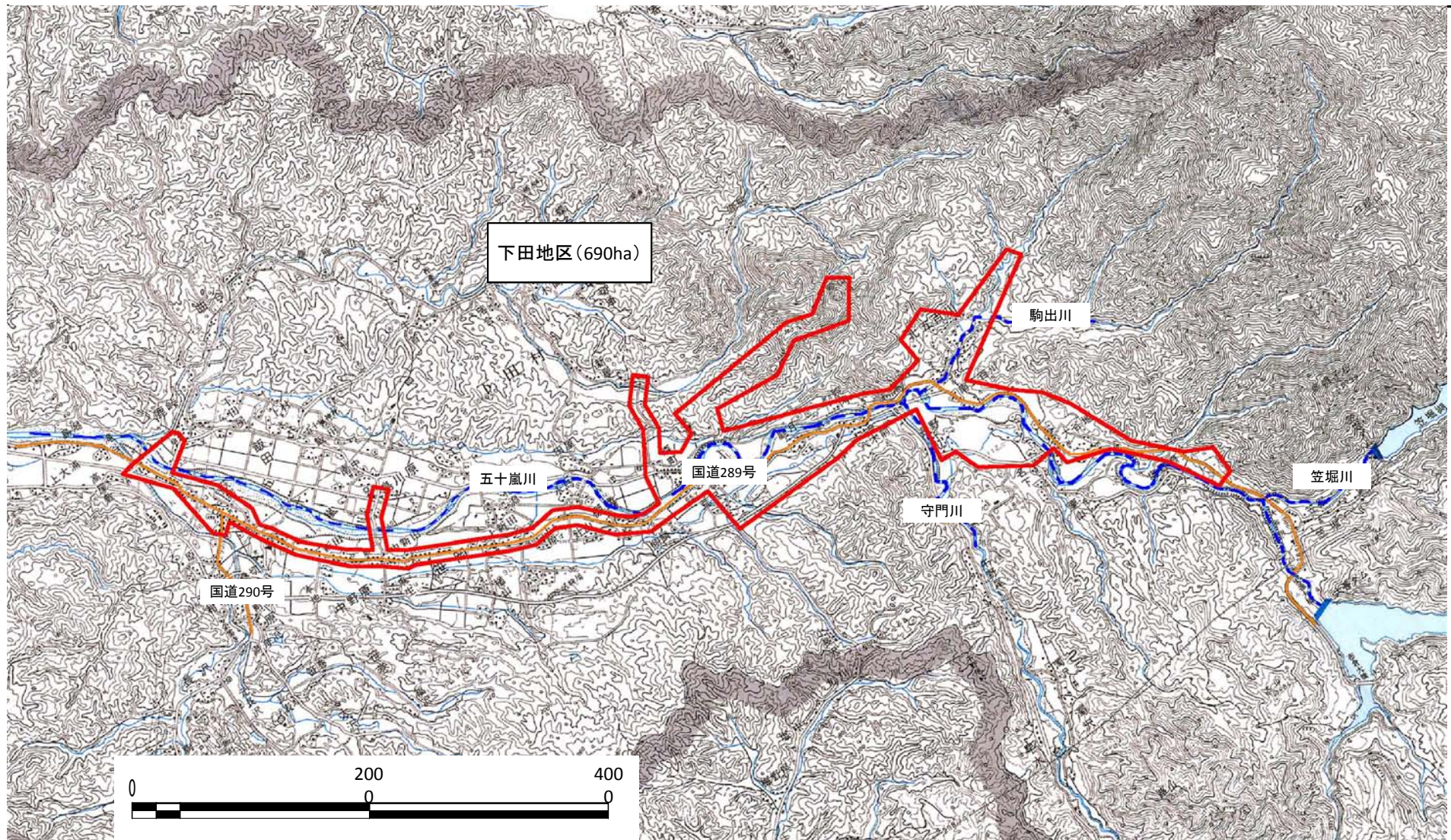
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性		従前値		目標値	
						基準年度		目標年度
下田地区の観光客入込み数	人/年	下田地区への観光客入込み数(観光動態調査)	下田地区にある観光施設の入館者数、下田地区で実施されるお祭り・イベントなどの集客数。(5%増)		456,760	H20	479,600	H25
体験プログラム参加者数	人/年	下田地区で実施される各種体験プログラムへの参加者数	地区住民が主体となって実施したイベント(したた郷うきフェスタなど)への参加者数(5%増)		20,528	H20	21,555	H25
「いい湯らてい」の入館者数	人/年	日帰り温泉「いい湯らてい」の年間入館者	下田地区の観光拠点である日帰り温泉「いい湯らてい」の利用者数(5%増)		207,352	H20	217,800	H25
道の駅「漢学の里」の利用者数	人/年	道の駅(漢学の里、交流センター悟空)の年間利用者数	自家用車使用の観光客に1番利用される道の駅の充実度を測定する。(5%増)	(4,150) (8,682)	12,832	H20	13,474	H25
地区の小売金額	万円/年	地区の年間小売商業販売額(商業統計)	下田地区の観光の活性化により経済効果を高める。(5%増)		427,983	H19	449,400	H24

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>1 観光拠点へのアクセスの改善、回遊性の確保</p> <p>①観光拠点へアクセスする道路を整備する。</p> <p>②観光拠点と観光拠点を結ぶ道路の拡幅・整備をする。</p> <p>③市内外から観光拠点にアクセスする道路の拡幅・整備をする。</p>	<p>【①に合致する主要な事業】基幹：粟ヶ岳アクセス道路の整備</p> <p>【①に合致する主要な事業】基幹：粟ヶ岳登山道駐車場の整備、東屋・トイレ整備事業</p> <p>【①に合致する主要な事業】基幹：北五百川公園の整備、北五百川公園案内看板整備</p> <p>【②に合致する主要な事業】基幹：市道森町院内線の整備</p> <p>【③に合致する主要な事業】基幹：市道森町中浦線の整備</p>
<p>2 観光拠点施設の整備</p> <p>①白鳥の飛来する河川、五十嵐川周辺を整備する。</p> <p>②道の駅の機能の充実事業を実施する。</p> <p>③ヒメサユリの小径のある高城など里山を整備する。</p>	<p>【①に合致する主要な事業】基幹：(仮称)白鳥の郷公苑の整備</p> <p>【①に合致する主要な事業】基幹：案内標識の整備</p> <p>【②に合致する主要な事業】提案：交流拠点施設整備事業</p> <p>【②に合致する主要な事業】提案：交流拠点施設活用検討事業</p> <p>【②に合致する主要な事業】提案：地元食材を活かしたメニュー開発事業</p> <p>【②に合致する主要な事業】提案：農産物直売所運営検討事業等</p> <p>【②に合致する主要な事業】基幹：観光交流センターの整備</p> <p>【③に合致する主要な事業】提案：高城ヒメサユリの小径等整備事業</p> <p>【③に合致する主要な事業】基幹：ヒメサユリの小径駐車場整備事業、東屋・トイレ整備事業</p>
<p>3 住民による体験プログラムの充実</p> <p>①下田地域の魅力をイベントやバスツアーなどで体験してもらう。体験プログラムの充実を図る。</p>	<p>【①に合致する主要な事業】提案：道の駅を拠点とした下田地域体験事業</p>
<p>その他</p> <p>【かわまちづくり】 本市は平成21年8月7日にかわまちづくり計画の認定を受けたため、ソフト事業を中心にこれと連動して事業を進めていきたい。</p>	

都市再生整備計画の区域

下田地区(新潟県三条市)	面積	690 ha	区域	森町、荒沢、庭月、北五百川、大谷地、名下、荻堀 外
--------------	----	--------	----	---------------------------



シタダ サンジョ ウシ
下田地区(新潟県三条市) 整備方針概要図

目標	自然環境をはじめとする下田の地域資源を活用した着地型観光の地域づくり	代表的な指標	下田地区の観光客入込み数 (人/年)	456,760	(H20年度) →	479,600	(H25年度)
			体験プログラム参加者数 (人/年)	20,528	(H20年度) →	21,555	(H25年度)
			道の駅「漢学の里」の利用者数 (人/年)	12,832	(H20年度) →	13,474	(H25年度)

